

## 平成 26 年度第 1 回高知県産業振興計画フォローアップ委員会 議事概要

日時：平成 26 年 9 月 12 日（金） 13:30~16:30

場所：高知サンライズホテル 2F「向陽」

出席：委員 25 人中、16 名が出席（代理出席 1 名を含む。）

議事：（1）高知県経済等の動向について

（2）第 2 期計画 ver.3 の進捗状況等について

①産業成長戦略の各分野で掲げた目標達成に向けた確認、平成 26 年度上半期の進捗状況、第 2 期計画 ver.4 へのバージョンアップのポイント

②地域アクションプランの平成 26 年度上半期の進捗状況、平成 26 年度の追加等

（3）その他

### 1 開会

### 2 委員紹介

### 3 知事挨拶

本日は第 1 回産業振興計画フォローアップ委員会にご出席をいただき、誠にありがとうございます。本日はかなり時間をかけて、これまでの取組状況について説明させていただき、それを踏まえて来年度以降に向け、さらにどういった形でバージョンアップをしていくのか、新しい視点・方向観をご議論賜りたいと考えています。

先ほどまで経済財政諮問会議のもとにある、「選択する未来委員会」に出席し少子化対策や地方創生などについて少し意見陳述させていただきました。今、東京へ行くと「地方創生」がものすごく大きな熱気を帯びて議論されています。しかし、空港についてテレビを見てみると、日本の地方創生という昔からふる里創生 1 億円のように、要するに“バラまき”、“智恵がない”、そういう前提で議論が進められている感じも少しあるような気がしております。私は今、地方は一生懸命頑張っていて、いろいろな智恵、工夫を出しているところであるというお話をし、そしてまた、その中にいくつかボトルネックになっている部分があり、それをどうやって官としてクリアして、どのように国と地方で協働してやっていくかが大切ではないかという話をさせていただいたところです。

この産業振興計画も第 2 次計画の ver. 3 に至るまで、6 版まで版を重ねてきているわけです。皆様方から、いろいろご指導をいただきながら取り組みを進めてきました。思いの外うまくいったものもあるかと思っておりますが、他方で残念ながらまだまだ課題が多いと思う部分もあります。新たにチャレンジをはじめたが故に苦勞をしている部分もあります。いずれにしても多くの皆さんとともに智恵を出し合いながら、真の意味で県勢浮揚につなげていくようにしたいと考えています。

新しいバージョンアップのポイントは、特に骨太の点を盛り込んであると考えております。ぜひ皆様からのご意見を賜り、今後に生かしていきたいと考えていますので、ご意見をよろしく願いたします。

### 4 委員長・副委員長選出

\* 委員長に、国立大学法人高知大学副学長の受田浩之氏を選出。副委員長に、高知県商工会議所連合会会頭の青木章泰氏と高知県市長会長（高知市長）の岡崎誠也氏の 2 人を選出

### 5 議事

議事（1）～（2）について、県から説明し、意見交換を行った（主な意見は以下のとおり。）議事につ

いては、すべて了承された。

※当日は、(2) ②→(1)→(2) ①の順番で説明・協議を行った。

(2) 第2期計画 ver. 3 の進捗状況等について

②【地域アクションプラン】 平成26年度上半期の進捗状況、平成26年度の追加等  
《【資料4】を各地域産業振興監から説明》

※意見交換概要（以下、意見交換部分は常体で記載）

(A 委員)

安芸地域は、「はた博」をモデルに進めているようだが、組織立てが「はた博」とは随分違うが考えを聞かせたい。続いて、香美市は龍河洞のことを全く考えていないのか。

(川澤安芸地域産業振興監)

東部博は、今委員から質問があったとおりに行政主導という形にしている。民間主導の形が望ましいという意見が多々あるのは承知しているが、今の東部の現状を考えた時に、やはり民間の力が幡多に比べ随分弱いという現状認識であり、行政主導で当面やっていく。その民間の活力をいかに巻き込んでつなげていくのかは、正直大きな課題。先ほど説明した実施計画書の中で、イベント等はすべて記載をするという方向で進んでいるが、民間の活力の部分がまだ今の段階では十分だという認識は持っていない。民間の方を巻き込んで一緒に民間の方にも広げていくことを課題認識のもとに各市町村ともに進めている。

(國沢物部川地域産業振興監)

今回新しく追加項目として挙げたえびす商店街は、この山田商店街の中心部にあるが、このえびす商店街だけの振興という意味ではなく、えびす商店街を1つのモデルとして、他の商店街にも広げていこうという試みである。香美市の商店街は先ほどの龍河洞の商店街のほか、美良布、神母ノ木、大柵の商店街もある。こういった商店街へ、移住者に入ってきてもらい、シェアオフィスやシェアハウスなどといったことで商店街を活性化させていこうというのが1つのプラン。こういったノウハウをこの龍河洞の中にも活かしていきたいと考えている。龍河洞の商店街は、クリスマスイブのキャンドルナイトや龍河洞のお祭り等の観光面のイベントや、打刃物の体験なども行っている。今現在、龍河洞の商店街も含めた活性化を図っているところ。

(B 委員)

ユズやショウガというのは原料が安定的に確保できるから、加工度を上げていく工夫というのは大変大事なことだと思う。保冷施設だけでなく、冷凍にするとか、熱で水分を飛ばすとか、黒砂糖とショウガとをミックスした商品開発で加工度を上げるとか、非常に健康にいいといった商品づくりに力を入れていくと売れ上げがさらに増えてくる。ユズ皮だとかショウガなどを使って、ユズ餃子やショウガ餃子などを売っているが、結構評判が良く単品で1億を超す商品にも繋がっている。そういった意味でも原料を確保しながら業務筋の市場を拡大するという取組は非常に面白いので、力を入れてやっていただきたいと思う。

(受田委員長)

先ほどの意見にも関わるが、加工ニーズに対応してその商品づくりをしていけば、市場性が相当広がるという話があったが、少し具体的な話をしていただきたい。

(山脇高知市地域産業振興監)

今までだと消費地側、例えば首都圏の大手の本店の厨房で済むような加工を高知側でやってくれないかと

というようなニーズが多くなっている。恐らく首都圏や関西圏における現場での人手不足が起きてきたため、そういうことを産地側に求めてきているのではないかと考えていて、こちら側に潤沢に人手がいるかどうかというのもあるが、今の人口動態を考えれば今後こういう傾向が顕著に出てくると思うので、一定機械化をすることにも取り組む必要があると考えている。

#### (C 委員)

例えばある事業を立ち上げて生産を始めた時に、大手流通と付き合いと億ではなく数十億単位の製品総売上額となるのだが、過去のビジネスを見ていると、それをことごとくあきらめている。未来永劫売ってくれるかどうか分からないというリスクはあるが、生産あるいは生産を立ち上げてのリスクテイクができなくてあきらめているのが結構ある。しかもその市町村と話をしてもそれに手を出すべきではないというものに対し、どのようにリスクテイクを支援するのかということを考えていく必要があるかと思う。例えば色々な補助金もそうだが、時として補助金よりも無利子融資の方が有利な時あり、事業をやっていく立場としてすごく回しやすいということもあったりする。1つとらしてあげたら、ここにある幾つかの事業を束ねた分だけで何十億という効果出てくるものが実際にある。どのように支援するのかを制度的に考える、あるいは悩んでいる市町村長さんたちの悩みを聞いてあげることをしていけばいいという気がしている。

#### (尾崎知事)

大きい仕事が増えても、そのロットが大きすぎて断ったという話はもうたくさん聞いている。ただ企業にしてみてもあまり特定の大口のもの、単体だけに頼り切るような企業体は、本当は危険だと思う。だから、いろんなニーズに応じていけるような仕事をしていく中でだんだん体力がついてきて、大口の商売も自分たちの商売の1つとしてできるようになるというふうに、そういったパスをたどっていくようにお手伝いする仕組みというのが大事だと思う。

そういう点でいくと、例えば今まで外商は全くやっていなかった企業が商談会に参加するようになり、地域の直販所だけで売っていたのが、地元スーパーで売ようになった、その外商の機会に参加するようになって東京の大手デパートへ行くようになった。するとそれに伴ってささやかだが、加工場を新設して対応するようになった。さらにロットが増えた。それがさらなる加工場の新設につながった。そうしていく中で、自社製品的なものも増えた。それに伴ってビジネスプランづくりをする、本当の意味での経営というものも本格的に展開し始めた。というような感じのプラスのスパイラルを1つ1つの企業にどう展開していくかということではないかと思う。

だから、そういった形での川上から川下までの一連の支援策のメニューというのを産振計画が持っている。常にあるステージから来てひとつづつと大きくなった段階で、さらにその次に行ってもう一段大きい仕事ができるようになるよう、インセンティブづけるといふか、政策の方でもそういった形で誘導できるような仕組みづくりを常に心がけていく必要がある。

去年もパス回しの部分について何度か説明したが、1つのステージを抜けた時に、その次のステージに誘導していくような仕組みを常に政策群として我々セッティングするように心がけていきたいと思う。

### (1) 高知県経済等の動向について

#### 《【資料1】について、産業振興推進部長から説明》

#### (D 委員)

高知県経済について3つ話をすると、1つは昨年秋以降、特に今年の昨年度末の駆け込み需要の顕在化というところまでは、高知県経済も確実に景気も回復傾向になってきており、県内において影響が大きい公共投資が明確に増加に転じ始めたこと。それから全国の景気回復の影響が数歩遅れではあるが、高知県にも波

及してきたということを背景に、ばらつきはあるが、多くのところが企業収益の回復や、先ほどご覧いただいたような雇用・所得関係もやや中期的に見ても強めの改善というものが出てきているので、そうした点がこの春まではあったかと思う。

2つ目はこの春以降で、反動減というものが全国的にも高知にも出ているが、こちらの回復というのが今ポイントとなっている。4月～6月にかけてばらつきがある。ただ7月の台風の接近、8月の豪雨、台風などの影響が出ているので、まだ数字は手に入れてないが、いろんなところで下げたことは事実だと思う。ただ、これは腰折れというところに行くのか、それともまた緩やかに回復基調というところに戻ってくるか、現時点ではまだ分からない。

3つ目は、いずれにしても日本の中長期的な成長力は非常に下がっていて、低い天井の中での景気回復パスを今たどっている。だから、今回のこの計画のように、中長期的に見た成長力あるいは成長の天井を上げていくような施策を着実に打っていくことが大事だと思う。

(尾崎知事)

長雨、台風の影響かなり出ている。具体的にいえば、林業だと林道が被害を受け、生産に支障が出ている。それから農業では、ハウスや、集荷施設が被害を受けた。こういうものを早期に復旧できるよう、例えば日高の集荷施設も集荷が実際に始まる11月下旬ぐらいには何とか再稼働するように今、全速力で取り組みを進めている。観光も本当にダメージが大きかった。これを取り返すためのプロモーション、営業の強化を図るに十分な予算を9月の補正予算で提案をして、議会でご審議をいただこうと考えているところ。

この3ページに転出・転入について今回少し詳しくデータを加えているが、結論からいうと、移住の取組を大いに頑張らないといけないということが分かった。この大きい緑の線の循環を少し見ていただきたいと思う。前回平成12年～19年にかけて、いわゆるいざなぎ景気と言われた時期に、同じように転出超過が大きくなってきた。今回もまた転出超過になってきているが、中身を見ると、前回に比べてはるかに転出量は小さくなってきていて、そういう意味で留める力は強くなっているのだろうと思う。とは言いながら、やはり1,700人から2,000人ぐらいのレベルの転出超過という状況になってしまうところがある。今回は転出というより転入が減っており、恐らくいわゆる転勤が減ったということだと思う。移住は数百人レベルに達してはいるが、転入というのは何千人レベルで来るので、企業等の高知支店に配属になったとか、それから学生が帰ってきたとかは、色々な理由があると思うが、基本的に経済活動にかなり影響されてくる。

恐らく東京の方で人手不足になっているため高知側に人を回す余裕がなくなっているということが影響していると思う。ただ、ここでさらにデータを見て分析しないとイケないと思う。

いずれにしても、我々として何千人流出していくかということが、高知県のパワーがどれだけ減少するかに繋がる話である。見てみると、やはり前回の傾向に比べればはるかにまして、今回の方が転出超過をぐっと抑え込んでいるということはよく分かる。だが、それでもやはり見ると1,000人～2,000人ぐらいのレベルで超過している。やっぱり移住促進策のインパクトとして、この後説明するが去年よりはるかに移住者が増えそう。だが、やはり500人とか600人ぐらいのレベルではなく、1,000人です。もっと言えば1,500人とか2,000人とか、それぐらいのレベルで移住者を引き込んでくる力がないという問題に対する根本解決にならないということは、ここから見て取れるかと思う。

移住策について後でまた強化策を話すが、その際にまたこういうことを1つのデータとして見ていただければと思う。

## (2) 第2期計画 ver.3 の進捗状況等について

### ①産業成長戦略の各産業分野で掲げた目標達成に向けた確認、平成26年度上半期の進捗状況、第2期計画 ver.4 へのバージョンアップのポイント

《【資料2】【資料3】を各部会長、各部長から説明》

(E 委員)

県内4施設がCLTを使用した施設、私どもがCLTで店舗等ということを考えてことがあるが、現実的にはまだなかなか建築確認が下りないということで断念をした経緯がある。現在進められている4施設はどのようなタイムスケジュールで進めているのか。

(大野林業振興環境部長)

それぞれ段階が違い、現状は大臣の確認を受けないと建てられないという状況。大臣の特認を受けるための試験を経て、大臣特認で進めようとしている施設もあれば、従来型の在来の中にCLTを組み込んだ方法で法に抵触しないやり方を選択しているものがある。現在進んでいる3施設については現在既に実施設計レベルに入ってきているので、来年度以降に施工を予定している。

(A 委員)

高知で目に見える資源というのは農産品と木だけではないか。そういう意味で、農産品は出荷額1,000億を超えているし、食料品の製造出荷額も900億近くまでであるということだ。産業といえるオーダーは1,000億という単位ではないかと思う。そういう視点からも、目の前に見えている宝の林業はケタが1つ違うのではないかという思いで聞いていた。全産業分野が高知県の宝の1つである木を使うことを考える施策を講じていかないと本当の意味での産業は生まれないのではないかと思う。

(尾崎知事)

そうですね。ただ、だからといって例えばビニールハウスを全部木製にして使い勝手が悪くなるということになると、どうかと思うので、無理しなくても需要が劇的に増えるという道、しかも木を余すところなく使うという道をぜひ探していきたいと思う。

そういう点からいって、今回おおよそ製材の始動に伴って、集成材の原料がしっかり県外に売れていくようになってきつつあること、それに伴って出てくる端材はバイオマスや発電所でしっかり吸収できる、ようになってきつつある。これは川上から川下まで大きく消費を増やしていくひとつの契機になっていくと思う。だから、より大きな本格産業の第一歩が今踏み出されようとしているところだが、もっと劇的にいきたいと思っている。それを成し遂げるためにぜひこのCLTを成功させたいと思っている。

今日も諮問会議で言ってきたが、よく都市 vs. 地方という対立の構図で捉えられるが、もしCLTでビルを造るようになれば、都市が栄えれば栄えるほど山が栄えるということになってくるし、まさに高知県は資源大国になり得るということである。実際イタリアなんかはトリノオリンピックの大規模な施設等を何棟もCLTで造っている。日本もぜひそうすることで、次のオリンピックではこの木使いの文明というものをまた再び日本に根づく形にもっていければと考えている。木を活かしたいという思いは全く一緒である。

(F 委員)

移住促進策を打った結果として移住者数130組という数字を載せているが、その平均年齢がどのくらいになっているか。

(中澤産業振興推進部長)

今年の130組は市町村分が速報値のため個別のデータがないが、直近の25年度で言うと20代、30代、40代が多い。

(F 委員)

それを聞いて安心したというか、とても素晴らしい中身になっているなというふうなことを感じた。実は

申し上げようと思っていたのは、その移住のメリットとして子育てや教育を言えればいいなということであり、要するに大都市圏と比較してきめ細かい対応ができるのか安心であるとか、気軽な負担で大きな効果が出せるよということが言えればいいし、産業振興計画の枠外になるが、教育システムもそう言えるように少しずつ教えていければ、ますます働き盛りの安定した家庭を持った方が増えるのではないかと思う。

(中澤産業振興推進部長)

私どもも意外だったのが、子育て世代が思った以上に多かったということ。先ほど地域アクションプランの取り組みで、嶺北の移住の取り組みを紹介したが、あの地域は本当に中山間地域で、子育てのために来られたというご家族、小さな子どもさんがいるご家族というのが多い地域である。もともとの人口があまり多くないので、1世帯2世帯が来るともう地域がそれできなり救いになり、それがまたネットワークになって、次の情報発信までしてもらおうといういい循環が生まれているので、ぜひ子育て環境も含めてアピールをしていければという考えである。

(G 委員)

これから高知県は観光分野というのが非常に重要な柱にもなるが、将来それを大いに伸ばしてもらいたいということ。例えば県外から来られる時に、飛行機で来た方は非常に不便。これから安芸の方でいろんなイベントや室戸のジオパークがあるが、特に高知の東方向に行こうとした時に、空港からの交通機関が何もない。あえて言えばレンタカーを借りていくかというようなこと。目の前に迫っている土電と県交通の統合だが、5億を出資ということも聞いているので、ただ単に出資するのか、大いに口を挟むのか、そのあたりもちょっと聞きたい。今も言ったように県外からせっかく来て、不便でもう二度と来たくないなんて発想が出てくると非常に具合が悪いので、せめて一番弱いと思われる飛行機で来た方が動きやすい方法を、ぜひこの新会社で考えていただきたい。

(尾崎知事)

観光客として車が圧倒的に多く、それからバスと、自動車系統で来る方が圧倒的に多いのは確か。ただ逆に言うと、二次交通のシステムがもっと発達していれば、例えば飛行機だとかJRだとかその他のお客さんが増えてくるということになるかもしれない。手ぶらで来た方が移動する手段という点においてもっと便利にならないか、これは観光政策上の課題であり続けていると思う。例えば長崎県は県営交通としてバスとずっと持っていて、それは1つの動機として観光の二次交通システムとして使えるようにということだ。

今回土電と県交通が統合をするということになり、県としても出資をし最大の株主になるわけで、そういう中で我々として相応の経営上の責任を果たしていけないといけないと思う。任せるときは任せなければいけないが、やはり県民の新しい会社として我々としてしっかり相応の経営上の役目を果たさなければならない、そういう思いで今後も対応していきたいと思う。

そういう中でいろいろ我々からもお話しさせていただく点もあるし、新会社の方でも、こういうことやったらどうかと考えている。その中の1つには番号制を導入し、乗り継ぎをもっと便利にできないかということ。これが導入されてくると、例えば完全な二次交通として機能している京都のバスのように、番号だから県外から来た方でも分かりやすく、しかも乗り継ぎのシステムが完璧に分かっていけば、そのバス乗り継いでいけばどこでも行けるというシステムが組めていけるようになる。我々として今考えているのは、今回の統合を機に高知県において、特に中央地域において二次交通システムとしても機能するようになり、結果、これが新会社の経営にとってもいわゆる外貨を取り込めるということになるわけで、観光客ですと、それで対応できるようにするという。そういう意味でも新会社の経営にも大いにプラスになる。そういう形に持っていければと、そのように考えている。

どこ向けをどうするとは今はまだ申せないが、基本的な方向観としてはそういう考えだ。

## (H 委員)

幾つかの分野にわたってこういう視点が入ったらというのを四つほどお願いしたい。

今エンドユーザーの販売の一番出口のところから多く聞こえるのは、顧客ニーズとバイヤーのニーズとの間にすごくずれがあるということ。プロモーションや色々な商品づくりをしていると実にそういう問題点がある。バイヤーも実は人手不足で、産地情報とか今までのようにすごく研究熱心な状況ではない。逆にいうと、顧客の思っているものとバイヤーの欲しいものに大きなずれが店頭で起きているということが、どの分野でもよくある。そういうことを考えると、やはり顧客が何を欲しがっているかの研究を相当生産者がしていないといけない。バイヤーに言っても、売り手に売っても売り手作戦と使い手作戦がずれているので、いくらやってもミスマッチが起きていく。そうすると、生産者がほんとにいつも苦しい闘いをして、商品開発ばかりやらなきゃいけないということを感じている。

それから二つ目は業界において、今パス回しという話があるが、情報のパス回しも実は非常に重要で、例えば地域間というのはそれぞれに競争相手ではあるが実は運命共同体で、高知の何々って言った時に、1生産者が欠品になった時の代替情報というのがないと、調達能力が低くなる。お互いに同種のものを行っている時は、これ企業秘密でもあり競争相手ではあるが、こちらが急に何かの理由で欠品になった時に代替か同じ高知県から出せるような情報のパス回しの仕組みをつくるのが、少し時間かかるかもしれないが非常に重要。飲食店がいつも取っているところが欠品になっても、お客さんは待ってくれないので、そういう時のいわゆる商社機能みたいなものも実は少量多品種の生産地は工夫しないといけないという状況がある。

三つ目は、国全体ですごく深刻な問題が今物流トラックの人手不足で、かつバス含めていろんな事故があったので国の基準が高まっていて、小さな運送会社が本当に難しい状況。小さな問題のように見えるが、生産地からするとコスト高に結びつく非常に大きな問題。いわゆる末端の毛細血管のところから運ぶトラック便のことをもう少し県全体で総合的に取り組むと、県下の競争力は非常に高まる。これはかなり深刻な問題。安全運行に必要なことだが、国の方がどんどん縛りをきつくしている。生産地が協働連携して、物流トラックの効率を高める。行きと帰りの便の荷をうまくやっていく。これも非常に難しい状況ではある。逆に言うと、競争力になるところです。このあたりが業界で共通の課題だ。

四つ目は林業の問題だが、いつまでも建材を追っかけるのはすごく厳しくて、先ほど言ったようにぜひ1,000億の大台にしてほしいと思うが、これは1つ例をいうと、例えば10年15年ものの例えば11~12センチの1mの木をいま日本産の木材として売ると、10円~マイナス30円ぐらいになる。でもこれを例えば原木シイタケの原木というような形にすると50円ぐらい。さらにお椀等の木工品で、木地で木地師がくり抜いていくと1個300円のお椀が10個でき3,000円ぐらいになる。さらにこれに漆をかけて加工していくと、作家ものだと1個3万円のもので10個取れる。そういうふうにしていくと1つの材料が高付加価値化していく。なぜこれを言うかという、移住に非常に関係があって、林業のご主人についてくる女性が例えば木工とか造形作家であれば、多様な人が森林に住む。これはスウェーデンとかフィンランドとか先進諸国で実際には森で子どもを育てようということが進んできていて、幼稚園なんかを森に移転しているような動きがある。こういうことを考えると、移住を1,000人にしていく話と林業を1,000億にしていく話は非常に密接な関係があると思った。

## (尾崎知事)

まず顧客ニーズとバイヤーニーズの違いは、これは目から鱗のような本当の話である。テストマーケティングの事業等、スーパーに棚を設けさせてもらい直接お客さんと接する機会も設けてはいる。でも、やはり少しそのところを大いにもう一段意識した取り組みをしないといけないなど自覚をしたところなので、そういう対応をさせてもらいたいと思っているし、また欠品の問題・物流の問題についても貴重な意見をいただいたので、検討させてもらいたいと思う。

林業について、色々なタイプの人がぜひ木で暮らす取り組みになってもらいたいものだなと思っていて、併せて今後、例えば皆様が増産していく、大きな商流ができてくる、ゆえに自伐林家の皆様も取り組みがで

きるようになってくる。いわゆる木が売れるようになってくるというか、木がマーケットの値段で売れるようになる。すると自伐林業として参加される人が出てくると。すると、その後ろにもまた木工でもやろうかという方も出てくる、といった形になってくるんじゃないかと。ぜひ木をめぐって多様な方々が暮らしている産業群の形成というものを目指していく。

いわゆる自伐林業的な方を今度新たに育成しようとしている。これは移住ともすごく親和性があるし、例えば集落活動センターの収入源としてもものすごく親和性のある仕事だと思う。そこで切った端材が増える。それを木工品にしよう。そういう話が出てくると思う。そういう形になっていただければと思う。

#### (I 委員)

今治のタオル産業は、十数年前は中国のタオルに押し込まれて、タオル組合はセーフガードを要請しようというような状況であったと記憶している。現在は今治タオル協会が品質基準を設けて、その数値基準を設けて、その数値基準をクリアすると共通のロゴ・ブランドを使えるということで、非常に発達している。できるならば何か数値基準を設けて、これをクリアすれば土佐何とかを名乗れるといったことがブランド化していくうえで非常に大事なことではないかと思う。

もう1点、観光のところで高知県流おもてなしという言葉があったが、この高知県流おもてなしというのを我々高知の人間は何となくこんなものということが分かるが、はっきりと「それが高知県流おもてなしのコアの部分」という認識できるようにした方がいいのでは。

最後に、今サンゴの価格が十数年前から言うとひとケタ違ってきているが、若い方もいま加工業を目指してやろうと入ってきてくれる方もまだいらっしゃる。そういった状況の中で、今ならまだその伝統産業といわれる土佐のサンゴを守れるような気がする。今でも土佐沖の赤サンゴというのはやっぱりサンゴの中で最高級。宝石サンゴのトップは香港が一番だが、結構高知でつくったものが向こうで売られているというような状況がある。サンゴ業界の人は行政の支援なしでやってきていると思うが、伝統産業という位置づけが過去にあったものだから、サンゴ業界にお力添えをいただきたいなというふうに思う。

#### (尾崎知事)

基準に馴染むものと馴染まないものがあると思う。例えばトマトは糖度の数値基準を設けて対応したりしており、ブランド化の1手段として有効だと思う。そういう中で、確かに高知県流おもてなし、高知県は楽しい、いい人が多いと言ってもらえば非常にいい点が多いと思うが、これ確かに国際観光を推進していくうえでやはり一つの典型がないと、わざわざ高いお金を払って来たのに期待外れだったということになってはいけないので、一定のレベルをクリアすること、そしてそこには一定の定型があるんだということ、それが一つ商品化とされるということ、そういうところを大いに意識したいと思う。

サンゴはちょっと勉強させてもらいたい。

#### (原田商工労働部長)

伝統産業に関して若干支援の制度を設けているが、まだ今年始めたばかりなので、今委員がおっしゃったような観点で色々ご意見をお聞きし、伝統産業としてのサンゴの育成、支援を意識していきたいと思う。

(以上)